

岡山市書写教育研究会要項

1 研究主題

「伝え合う力を高め、温かい人間関係を築く子どもの育成」
 —— 学習したことを活用する書写の授業をめざして ——

2 期 日 平成24年11月15日(木)

3 会 場 岡山市立陵南小学校

4 日 程

13:30 14:00 14:45 15:05 15:15 16:20 16:30

受	公開授業	移動	開会	研究協議	閉会
付	(3年1組)	休憩	行事	(図書館)	行事

5 公開授業

単 元 名	～題 材～	授 業 者	会 場
「これまでの学習を活かして」	～木～	平島 智子	3年1組

6 研究協議 【運営】 岡山市立浮田小学校 吉田 健 教諭

(1) 開会挨拶 岡山県習字教育研究会岡山支部長
 岡山市立箕島小学校 校長 山根 一郎 校長

(2) 研究協議

1) 研究概要説明 岡山市立陵南小学校 福島 昌江 教諭
 矢吹 加奈子 教諭

2) 授業反省 岡山市立陵南小学校 平島 智子 教諭

3) 協議 【司会】 岡山市立西大寺小学校 平木 雅人 教諭

(3) 指導講評 岡山市立妹尾小学校 宮本 毛登明 教諭

(4) 閉会挨拶 岡山市立陵南小学校 藤井 肇 副校長

1 研究主題

「伝え合う力を高め、温かい人間関係を築く子どもの育成」

2 研究主題について

「伝え合う力」とは、一般に「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力、これからの情報化・国際化の社会で生きて働く国語の力」といわれている（『小学校学習指導要領解説 国語編』P4～P9）。しかし、この力は、単に言語活動を通してのみ培われるべきものではなく、音楽、造形あるいは舞踏などによる表現活動を含めて他者との学び合いや深め合いを基本とする学校教育全般で培われるべきものである。

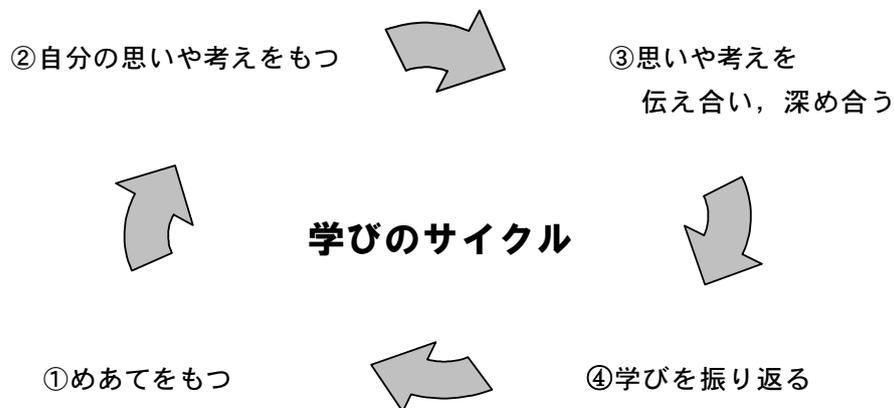
そこで、本校では、「伝え合う力」を国語科だけではなく、全教科・全領域、さらには学校教育や子どもたちを支える地域・家庭において育んでいくべきものととらえている。本校でいう「伝え合う力」とは、あらゆる場面において、言語・非言語を問わず互いの立場や考えを尊重しながら、適切に表現したり正確に理解したりする力である。

この力を育成するためには、聴き合い、分かり合い、高まり合おうとする学びの場を大切にし、相手と分かり合う喜び、それによって自らも深まったり、高まったりできる喜びを感じる経験を積み重ねていくことが大切であると考えている。

「温かい人間関係」とは、自分とは異なる相手を思いやり、相手の思いや考えを受け止めながら、よりよくともに生きていこうとする人間関係である。それは、教えるものではなく、人と関わる中で育まれていくものである。

したがって、「温かい人間関係」を育てていくためにも、自分の思いや考えを表現したり、相手の思いや考えを心の耳で聴いて受け止めたりして、聴き合い、分かり合い、高まり合おうとする学びの場が大切にされなければならないと考えている。

学び合う喜びを実感する学習の流れ



学習の流れにおける工夫・支援

(1)めあてをもつ

◎めあてに導くまでの工夫

- ・視覚に訴える・具体物を使うなど、教材提示の工夫
- ・なかま分けやゲームなど、学習のきっかけとなる具体的な活動
- ・子どもの言葉から高め、子ども自身が見通しをもてるなど、子どもの立場に立った「めあて」
- ・既習事項との違いを明らかにし子どもの意識のズレを生むなど、学習意欲を高める工夫

など

◎学習の準備(心・物)を整える工夫

- ・普段の学校経営・学級経営
- ・家庭との連携

など

(2)自分の思いや考えをもつ

◎考えをもつ時間の確保

◎具体的な活動の工夫

- ・考えの根拠となる資料や言葉にサイドラインを引く活動
- ・自分の考えと、その根拠をノートに書く活動
- ・ワークシートの活用
- ・自分の考えをもちやすい、自分の考えをまとめる、伝えるための作業的な活動

など

◎場や準備物の工夫

- ・ヒントカードや例示(モデリング)の用意
- ・机間指導と補助発問(スモールステップ)の用意
- ・自分のめあてに合った活動の場や器具や用具の準備

など

(3)思いや考えを伝え合い、深め合う

◎話し合い活動の工夫

- ・2人組やグループで考えを交流する
- ・考えが深まりやすい考えの取り上げ方
- ・具体的な資料の提示
- ・自分の考えと友だちの考えの相違が分かりやすい板書
- ・全員が意思表示をする工夫(挙手・ハンドサインなど)
- ・具体的な分かりやすい発問
- ・思考を深める中心発問の用意

など

◎聞き合える工夫

- ・開放的に話せる雰囲気作り
- ・普段からの「聴く」ことの指導や、立場や根拠を明確にした話し合いの指導(国語科の「話す・聞く」の単元を利用して)
- ・話しやすい座席スタイル

など

(4)学びを振り返る

◎振り返る時間の確保

- ・板書やノートなどを利用して、学習を振り返らせる

など

◎自らの成長や学び取った喜びを感じさせる工夫

- ・以前の自分との違いやがんばったことに気づかせる言葉がけをする
- ・初めの思いに付け加えて、ノートやワークシートに書かせる
- ・今日の学習日記を書かせる

など

3 書写学習において — 学習したことを活用する書写の授業をめざして —

研究テーマをふまえ、本校では、書写学習においても、児童自らが課題をもち、友達と互いにアドバイスを取り入れたり、がんばりを認め合ったりする「聴き合い、分かり合い、高まり合おうとする学びの場」を大切にしている。

また、学習が1時間の書写の授業で完結するのではなく、「学習したことを活用する」授業づくりをめざしている。特に、毛筆による学習は、文字を大きく書くため、点画の書き方や字形の整え方などを理解する上で有効である。小学校指導要領解説 国語編において、「従前から、硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うものとしていたが、今回の改訂ではそれを明確にしている。『毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し』とあるのは、毛筆を使用して書写の指導を行うことの国語科におけるねらいを明確にしたものである。」(P108)とあるように、毛筆による学習がその授業だけで終わるのではなく、学習したことを日常生活や他教科・他領域の学習活動に活かしていくことが大切である。

このような考えに立ち、「学習したことを活用する」ことを常に教師が意識し、既習の学習内容から今日の学習に活かせる部分があるかどうかを問いかけたり、他の文字や他の書く活動と結びつけたりしながら、日々指導を行っている。

4 書写学習における工夫と支援

(1) めあてをもつ

- ・自分のめあてに◎の印

「試し書き→手本と比べる→自分のめあてをつかむ」という流れで学習する。児童が試し書きと手本とを比べ、上手に書けた部分や直したい部分を赤ペンで記入することによって、自分自身の課題に気付くことができるようにする。さらに、その中でも特に今日がんばって練習したいところに◎の印をつけることによって、めあてを意識して練習できるようにする。

- ・既習の文字の掲示(→活用)

既習の文字を掲示し、「始筆・終筆」「折れ・曲がり・右払い・左払い」などの筆使いや接筆を想起できるようにし、活用できる部分がないかを考えながら書くことができるようにする。

(2) 自分の思いや考えをもつ

- ・多様な場や練習用紙

児童が自分のめあてに合った練習ができるように、多様な練習の場や練習用紙を準備する。

練習の場……水書コーナー・運筆動画コーナー・二色筆コーナーなど

練習用紙……籠書・骨書・始筆入り用紙・中心線入り用紙・部分練習の用紙など

(3) 思いや考えを伝え合い、深め合う

- ・友達からのアドバイス

練習の際には、練習コーナーに並んでいる次の友達やペアの友達からアドバイスをもらうことにより、互いに自分のめあてを常に意識して練習に取り組むことができるようにする。

(4) 学びを振り返る

- ・ペアの友達からの一言プレゼント

ペアの友達とまとめ書きを書いている様子を見合い、◎を付けた試し書きと比べて、伸びやがんばりを伝え合うことにより、上達した喜びを味わうことができるようにする。

- ・他の文字や場面への活用を促す問いかけ(→活用)

学習したことを他の文字や他の書く活動で使えないか問いかけ、活用していこうとする意識を高める。